

## 第1回可児市地域公共交通協議会 議事要点録

日時 平成24年6月25日(月)

午後1時30分～午後3時30分

場所：可児市役所4階第1会議室

出席者：(委員) 50音順：敬称略

加納 正佳 木村 治史 小山 幸男 佐橋 雅喜 澤田 幸博 品川 湜彦  
栃川 敏 林 隆 林 美由樹 溝口 明宏 門間 實 横田 賢二  
若林 拓史

(代理)

竹内 進(佐々木透委員の代理)

(事務局)

総合政策課長 牛江 宏 総合政策係長 肥田 光久  
総合政策係主任 渡邊 真史

欠席者： 安藤 美喜子 桑下 和弘 鍋島 寿 林 則夫 宮田 博文

### 1. あいさつ

事務局が開会を宣した。

〔会長選出まで事務局で議事進行を行う〕

### 2. 委嘱状交付

副市長から各委員へ委嘱状を交付した。

### 3. 会長の選出

#### (会長の選出)

協議会設置要綱第5条に基づく会長の互選について事務局が説明した後、委員へ意見を求めた。

**委員** 会長については、従来通り佐橋副市長が就任することが良いのではないかと。

〔賛成の拍手があり、佐橋委員が会長に就任し、会長席へ移動。以後、会長が議事進行を行う〕

#### (会長あいさつ)

会長が委員各位へのお礼と、公共交通の重要性をかんがみ活発な議論をお願いした。

#### (職務代理者指名)

会長が加納正佳委員を指名した。

**(議事録署名者の指名)**

会長から議事録署名者として、門間實委員と溝口明宏委員を指名した。

**4. 協議会運営について**

**(協議会の運営)**

事務局が資料3に基づき説明を行った。

**(協議会の協議事項)**

事務局が資料1に基づき説明を行った。

**【質疑なし】**

**5. 市内公共交通体系について**

事務局が資料4に基づき説明を行った。

**【質疑なし】**

**6.(1) 広見東・中恵土地区「電話で予約バス」試験運行について**

事務局が資料5に基づき、広見東・中恵土地区においてデマンド運行形式の「電話で予約バス」の試験運行を10月1日から実施すること、料金は300円とし障がい者等へは割引制度を適用すること、試験運行に伴いさつきバス広見東・中恵土線を休止し、本格運行後は廃止することを説明した。

**委員** 資料5の5Pの図に記載されている黄色の星は何を表しているか。

**事務局** 市中心部の利便施設を表しており、先行して実施している他の地区の電話で予約バスと共通のバス停留所である。

**委員** 無料体験期間中は何回乗っても無料なのか。

**事務局** その通りである。

**委員** 運行ルートは毎回変わるのか。

**事務局** 予約の入ったバス停のみを通るため、毎回変わる。

**【広見東・中恵土地区「電話で予約バス」試験運行案・さつきバス休止及び廃止について了承】**

**6.(2) 地域公共交通確保維持改善事業費補助金申請の承認について(確保維持事業)**

事務局が資料6に基づいて、国の補助制度を利用するために申請を行うことを説明した。

**委員** 他の地区も補助の対象にならないのか。

**事務局** この補助制度は平成23年度以降に開始した事業を対象としている。今渡・川合・土田地区の電話で予約バスについては可児駅まで運行しているが、この地区は平成22年度に事業を開始したた

め、今回の補助制度の対象から外れている。

**委員** 帷子地区は名鉄の駅に接続しているがどうか。

**事務局** この補助制度はバス路線に接続するフィーダー系統ということになるため、帷子地区は該当しない。

**委員** 広見東・中恵土地区を平成 25 年度のネットワーク計画に入れないといけないのではないかと。

**事務局** 事前に運輸局支局に確認したところ、運行事業者の決まっていない地区については申請することができないと指導をいただいたため、25 年度の申請からは外してある。

**会長** 変更申請について、増加額が 12 万 4 千円とのことであるが、元の額と変更後の額はいくらか。

**事務局** 変更前が 239 万 7 千円に変更後が 245 万 5 千円である。後に事務局から変更前 240 万円、変更後 252 万 4 千円に数字の訂正があった。

#### 【平成 24 年度の変更申請と平成 25 年度の新規申請を行うことについて了承】

#### 7. (1) 地域公共交通確保維持改善事業費補助金申請の報告について (調査事業)

事務局が資料 7 に基づいて、国の補助制度に申請を行ったことを説明した。

#### 【質疑なし】

#### 7. (2) 名鉄広見線 (新可児駅 ~ 御嵩駅) 活性化について

事務局が資料 8 に基づき、名鉄広見線の活性化へのこれまでの取り組み及び、平成 25 年度以降の広見線のあり方について、関係者を交え協議を行うことを説明した。

**委員** 資料 8 の 1 頁の利用者数について、平成 23 年は平成 11 年と比べると半減しているが、その理由は分析できているのか。また 2 頁の目標数値を達成すれば、広見線は何とか維持できるということなのか。

**事務局** 1 点目については、少子高齢化が 1 つの要因であることは確かではあるが、他の駅では利用者が半減するところまでは落ち込んでいない。また、ダイヤの関係等が影響しているとは思いますが、明確には捉えきれていないことが実情である。2 点目については可児と御嵩で 1 億円の補助金を支払っているのが、これは赤字の半額となっており、実質的には 2 億円の赤字になっている状況である。この赤字分が目標数値を達成しても解消されるわけではない。多少数字が回復したとしても、地域や利用者の努力があったという結果であって、鉄道の維持については依然厳しい状態であり、存続については地域の協力が必要であると感じている。それを踏まえて今年度、来年度以降の方向性を決める重要な年になると認識している。

#### 8. 意見交換

**委員** 広見東・中恵土線にデマンドバスを導入すると、さつきバスがさらに少なくなるが、今後さつきバスについてどのような考えを持っているのか。

**事務局** さつきバスと電話で予約バスをうまく使い分けていきたいと考えている。先ほど報告した調査事業である程度の方向性を出していきたいと考えているが、市中心部についてはさつきバスの東部線・西部線の路線を見直し、市内を循環させるさつきバスもあり得るのではないかと考えている。ただこれも現時点で確定させるわけではなく、市民ニーズをしっかりと把握をし、協議会の中でご意見をいただきながら決定していきたいと考えている。

**委員** 調査事業の調査内容はどのようなものか。

**事務局** 市民が望む運行ダイヤや目的地などを把握するためのアンケート調査や、乗降調査などを実施する。

**委員** 今渡・川合・土田地区のデマンド導入の際、調査を行ったのだが、さつきバス東部線と西部線は非常に利用が多かったため、何でもデマンドを導入するのではなく、皆さんの需要がどうなっているかをちゃんと調査することが大切である。例えば、さつきバスは市役所発、市役所着となっているが、市民は市役所に毎日行かないものである。本当に需要のある場所にまっすぐ行けるように路線を見直せばお客さんはもっと増えるのではないだろうか。潜在的な需要はあるはずなので、車社会から脱却して、公共交通に乗ってもらえる仕組みを作ることが重要であると考え

**委員** 調査事業の500万円という数字はもの凄くアバウトな数字に思えるが、これはどこから出てきたのか。

**事務局** 500万というアバウトな数字ではあるが、ちゃんとした積み上げは行っている。申請をした段階で何千円という細かいところまで必要ないとのことだったため、区切りよく500万で申請させていただいたということである。

**委員** 緑ヶ丘線の現状と将来の構想を教えてください

**事務局** 具体的な数字については今は示せないが、厳しい状況であるとは聞いている。多治見駅から可児駅に行く人は、JR 太多線を利用することが多いなか、その途中でいかに使ってもらえるかが課題であると認識している。

**委員** 緑ヶ丘線が廃止になると、先ほどの説明のフィーダー系統であるという根拠がなくなるのか。

**事務局** その通りで、フィーダー系統に関する補助金がもらえなくなる。5月に国の補助金の関係で事業評価を受けてきたが、緑ヶ丘線が基幹路線として機能しているのかどうか意見をいただいたところである。そのため市としては、緑ヶ丘線をもっと活用していきたいと考えている。例えば緑ヶ丘線を少し変更し、可児高校への通学に活用できるのではないかと話をいただいていますので、交通事業者と協議をしながら検討していきたい。

**委員** 今渡の駅前に名鉄の広い土地があるが、将来の計画は。

**委員** 現時点では、具体的な計画はありません。

**委員** 名鉄広見線の補助金について来年度以降はどうするのか。

**事務局** 今年検討する。もし広見線を続けていくなれば、赤字補填を行わないとやっていけないことは見えているが、行政単体で決定するわけではなく、活性化協議会の中で議論して決めていく。またその決定の根拠の一つになる、市民を対象としたアンケート調査の結果が出つつある。その結果も提示しながら決定していきたい。また、先ほどの今渡駅前の名鉄の土地については、市としても名鉄の意向を確認してきた。名鉄としても有効活用したい意向があるようだが、中々進んでいないようである。市としてもあの土地は有効に活用して欲しいと思っていることを述べておく。

**委員** 土地を放っておくのはもったいないので、運転免許センターを誘致したらどうか。そうすれば、名鉄の利用者の増加につながると思う。

**事務局** 貴重な意見として承った。

**委員** 工業団地の理事長と話をしていたときに出た話であるが、可児駅は降りても食事をするところがない。そのため、多治見で一度降りてから、可児に来ることもあるようである。駅前について何とかして欲しいと色々な方から話が出るので、考えてほしい。

**委員** 西可児駅についても同様である。街の発展は駅から始まる面があるため、駅を中心に街づくりを進めてほしい。

**事務局** 現在、移動手段の中心が自家用車になっており、公共交通の手から離れつつあることは理解している。ではどうするかと言うと、調査事業のアンケート結果で一つ結果が出ると思う。どうしたら市民の皆さんが、自家用車から公共交通へシフトしていただけるのか、その辺りの議論を皆さんの知恵をお借りしながら進めていきたいため、ご協力をお願いしたい。

## 9 . 閉会

会長から、本日の協議結果について非公開にする部分はないことの確認があり閉会した。